

平成 26 年度  
地域志向教育に関するアンケート  
(学生対象, 完了版)

金沢大学 COC 事業本部 アカデミア部門

# I. 調査概要

## 1. 調査目的

この調査は、金沢大学が取り組んでいる COC 事業について、学生がどの程度認知しているか、また、地域志向をどの程度獲得しているかを調査し、COC 事業の効果的な実施に有用な資料を作成することを目的として実施した。

## 2. 調査内容

- (1) 学域：人間社会学域、理工学域、医薬保健学域
- (2) 学年：1年、2年、3年、4年以上
- (3) 聞いたことがある言葉に○をつける（複数回答可）。  
地（知）の拠点、COC 事業、センターオブコミュニティー事業、アカデミア部門、地域ニーズ・シーズ部門、インテリジェント・ライフ部門、地域概論、地域志向教育研究
- (4) 共通教育の授業科目のなかで、地域をテーマとした内容について学習したか。
- (5) 学類の授業科目のなかで、地域をテーマとした内容について学習したか。
- (6) 地域をフィールドとする体験型授業科目（インターンシップ等を含む）を、共通教育または学類で受講したことがあるか。
- (7) 大学生活のなかで地域と交流したり、地域を支援したりする活動に取り組んだことがあるか。
- (8) 「地域の感性」を備えていると思うか。
- (9) 「知識と社会を結びつけられる行動力」があると思うか。
- (10) 金沢大学が地域社会によく貢献していると思うか。
- (11) 金沢大学生の「地域の感性」を高めるために、金沢大学はどのような取り組みをすることが期待されるか（自由記入）。

## 3. 調査対象

母集団：金沢大学1～2年生（定員合計3,452人）

抽出学類：人間社会学域（学校教育学類，地域創造学類），理工学域（機械工学類，環境デザイン学類），医薬保健学域（薬学類・創薬科学類，保健学類）

標本数：1,338人

## 4. 調査時期 平成27年1月12日～1月30日

## 5. 調査方法

対象学類選出のアカデミア部門員が、1・2年生を対象とした必修科目担当者に調査の実施と回収を依頼した。

## 6. 回収結果

回収数（率） 1,152 （86.1% =1,152/1,338）

有効数（率） 1,139 （85.1% =1,139/1,338）

なお、3年生以上は有効回答から除外した。

## 7. 調査報告書の作成

この調査は、アカデミア部門が調査内容及び方法を提案し、副部門長会議の確認を経て、佐川が配票・回収・集計・分析・報告書作成を担当した。

## II. 回答者の属性

1. あなたの所属する学域はどこですか。

1. 人間社会学域                      2. 理工学域                      3. 医薬保健学域

2. あなたは何年生ですか。

1. 1年                      2. 2年                      3. 3年                      4. 4年以上

表1. 回答者の属性

	人間社会学域		理工学域		医薬保健学域		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
合計	283	24.8	381	33.5	475	41.7	1139	100.0
1年	130	45.9	189	49.6	256	53.9	575	50.5
2年	153	54.1	192	50.4	219	46.1	564	49.5

表1は、回答者の所属学域及び学年を示している。

全体では、1年生が575名(50.5%)、2年生が564名(49.5%)、合計で1,139名であった。

人間社会学域では、1年生が130名(45.9%)、2年生が153名(54.1%)、合計で283名であった。

理工学域では、1年生が189名(49.6%)、2年生が192名(50.4%)、合計で381名であった。

医薬保健学域では、1年生が256名(53.9%)、2年生が219名(46.1%)、合計475名であった。

### Ⅲ. 調査結果の概要

#### 1. COC 事業のキーワードに対する認知度

3. あなたは、次の言葉を聞いたことがありますか。聞いたことがある言葉の番号のすべてに○印を付けてください。

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. 地（知）の拠点         | 5. 地域ニーズ・シーズ部門    |
| 2. COC事業           | 6. インテリジェント・ライフ部門 |
| 3. センターオブコミュニティー事業 | 7. 地域概論           |
| 4. アカデミア部門         | 8. 地域志向教育研究       |

表2. COC 事業を説明する言葉に対する認知度

	地（知）の 拠点		地域概論		アカデミア 部門		COC 事業		地域志向教 育研究		地域ニー ズ・シーズ 部門		センターオ ブコミュニ ティ事業		インテリジ ェント・ ライフ部門	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全体	205	44.1	161	34.6	84	18.1	63	13.5	55	11.8	43	9.2	41	8.8	22	4.7
人間社会学域	72	50.0	53	36.8	28	19.4	23	16.0	17	11.8	13	9.0	13	9.0	1	.7
理工学域	76	51.7	38	25.9	22	15.0	18	12.2	11	7.5	11	7.5	20	13.6	15	10.2
医薬保健学域	57	32.8	70	40.2	34	19.5	22	12.6	27	15.5	19	10.9	8	4.6	6	3.4
1年	91	43.8	60	28.8	42	20.2	29	13.9	21	10.1	18	8.7	15	7.2	14	6.7
2年	114	44.4	101	39.3	42	16.3	34	13.2	34	13.2	25	9.7	26	10.1	8	3.1

表 2 は、COC 事業のキーワードに対する認知度を示している。

全体では、「地（知）の拠点」が 205 名（44.1%）、「地域概論」が 161 名（34.6%）、「アカデミア部門」が 84 名（18.1%）、「COC 事業」が 63 名（13.5%）、「地域志向教育研究」が 55 名（11.8%）、「地域ニーズ・シーズ部門」が 43 名（9.2%）、「センターオブコミュニティー事業」が 41 名（8.8%）、「インテリジェント・ライフ部門」が 22 名（4.7%）であった。

平成 26 年度における COC 事業のキーワードに対する学生の認知度は低いと言わざるを得ない。今後の広報活動の促進が必要である。









## 5. 地域交流・支援活動への経験状況

7. あなたは、大学生活のなかで地域と交流したり、地域を支援したりする活動に取り組んだことがありますか。

1. ある
2. ない

表 6. 大学期の地域交流・支援活動

	ある		ない		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
全体	303	26.7	831	73.3	1134	100.0
人間社会学域	129	45.7	153	54.3	282	100.0
理工学域	69	18.2	311	81.8	380	100.0
医薬保健学域	105	22.2	367	77.8	472	100.0
1年	85	14.8	488	85.2	573	100.0
2年	218	38.9	343	61.1	561	100.0

表 6 は、大学生活のなかで地域と交流したり、地域を支援したりする活動への取り組み経験の有無を示している。

全体では、303 名（26.7%）であり、約 4 人に 1 人が経験していることが明らかとなった。

人間社会学域では 129 名（45.7%）が、理工学域では 69 名（18.2%）が、医薬保健学域では 105（22.2%）が、地域交流・支援活動体験をしており、人間社会が 4 割強と最も高いことが明らかとなった。

1 年生では 85 名（14.8%）であり、2 年生では 218 名（38.9%）であり、2 年生の体験割合が高いことが明らかとなった。

6. 「地域の感性」を備えているか

8. あなたは、「地域の感性」を備えていると思いますか。

1. そう思う      2. 少しそう思う      3. そう思わない      4. 分からない

表7. 「地域の感性」を備えているか

	そう思う		少しそう思う		そう思わない		分からない		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全体	51	4.5	400	35.2	460	40.5	225	19.8	1136	100.0
人間社会学域	16	5.7	120	42.4	102	36.0	45	15.9	283	100.0
理工学域	21	5.5	140	36.7	158	41.5	62	16.3	381	100.0
医薬保健学域	14	3.0	140	29.7	200	42.4	118	25.0	472	100.0
1年	22	3.8	192	33.4	226	39.4	134	23.3	574	100.0
2年	29	5.2	208	37.0	234	41.6	91	16.2	562	100.0

表7は、学生自身が「地域の感性」を備えていると感じているかについて示している。

全体では、「そう思う」と回答した学生が51名(4.5%)、「少しそう思う」と回答した学生が400名(35.2%)、「そう思わない」と回答した学生が460名(40.5%)、「分からない」と回答した学生が225名(19.8%)であり、「そう思う」「少しそう思う」を合わせた「地域の感性」を備えていると感じる者は39.7%であった。

「地域の感性」を備えている者に注目して学域を比較すると、人間社会学域では48.1%、理工学域では42.2%、医薬保健学域では32.7%であり、人間社会学域と理工学域でやや高く、医薬保健学域でやや低いことが明らかとなった。

「地域の感性」を備えている者に注目して学年を比較すると、1年生では37.2%、2年生では42.2%であり、2年生でやや高いことが明らかとなった。

7. 「知識と社会を結びつけられる行動力」があるか

9. あなたは、「知識と社会を結びつけられる行動力」があると思いますか。

1. そう思う      2. 少しそう思う      3. そう思わない      4. 分からない

表8. 「知識と社会を結びつけられる行動力」を備えているか

	そう思う		少しそう思う		そう思わない		分からない		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全体	45	4.0	325	28.6	546	48.1	219	19.3	1135	100.0
人間社会学域	12	4.2	100	35.3	128	45.2	43	15.2	283	100.0
理工学域	23	6.0	121	31.8	175	45.9	62	16.3	381	100.0
医薬保健学域	10	2.1	104	22.1	243	51.6	114	24.2	471	100.0
1年	17	3.0	168	29.3	263	45.8	93	16.2	574	100.0
2年	45	8.0	157	28.0	283	50.4	219	39.0	561	100.0

表8は、学生自身が「知識と社会を結びつけられる行動力」があると感じているかについて示している。

全体では、「そう思う」と回答した学生が45名(4.0%)、「少しそう思う」と回答した学生が325名(28.6%)、「そう思わない」と回答した学生が546名(48.1%)、「分からない」と回答した学生が219名(19.3%)であり、「そう思う」「少しそう思う」を合わせた「知識と社会を結びつけられる行動力」があると感じる者は32.6%であった。

「知識と社会を結びつけられる行動力」がある者に注目して学域を比較すると、人間社会学域では39.5%、理工学域では37.8%、医薬保健学域では24.2%であり、人間社会学域と理工学域でやや高く、医薬保健学域でやや低いことが明らかとなった。

「知識と社会を結びつけられる行動力」がある者に注目して学年を比較すると、1年生では32.3%、2年生では36.0%であり、2年生でやや高いことが明らかとなった。

## 8. 金沢大学の地域社会への貢献度評価

10. あなたは、金沢大学が地域社会によく貢献していると思いますか。

1. そう思う      2. 少しそう思う      3. そう思わない      4. 分からない

表9. 金沢大学が地域社会に対してよく貢献しているか

	そう思う		少しそう思う		そう思わない		分からない		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
全体	98	8.6	510	44.9	268	23.6	259	22.8	1135	100.0
人間社会学域	30	10.6	137	48.4	65	23.0	51	18.0	283	100.0
理工学域	44	11.5	163	42.8	97	25.5	77	20.2	381	100.0
医薬保健学域	24	5.1	210	44.6	106	22.5	131	27.8	471	100.0
1年	53	9.2	244	42.5	139	24.2	138	24.0	574	100.0
2年	45	8.0	266	47.4	129	23.0	121	21.6	561	100.0

表9は、金沢大学の地域社会への貢献に対する評価について示している。

全体では、「そう思う」と回答した学生が98名(8.6%)、「少しそう思う」と回答した学生が510名(44.9%)、「そう思わない」と回答した学生が268名(23.6%)、「分からない」と回答した学生が259名(22.8%)であり、「そう思う」「少しそう思う」を合わせた金沢大学の地域社会への貢献を評価する者は53.5%であった。

金沢大学の地域社会への貢献を評価する者に注目して学域を比較すると、人間社会学域では59.0%、理工学域では54.3%、医薬保健学域では49.7%であった。

金沢大学の地域社会への貢献を評価する者に注目して学年を比較すると、1年生では51.7%、2年生では55.4%であり、2年生でやや高いことが明らかとなった。

## 9. 期待される取り組み

11. 金沢大学学生の「地域の感性」を高めるために、金沢大学はどのような取り組みをすることが期待されますか。あなたの提案があれば自由に書いてください。

金沢大学学生の「地域の感性」を高めるために、金沢大学としてどのような取り組みが期待されるかについて、自由記述で回答を得た。これらを分類したところ<正課での工夫><課外活動の拡大><広報の充実><立地条件の克服><その他>及び<定義に対する質問>から構成されることが明らかとなった。

学生提案によれば、正課において地域との繋がりを拡大する工夫や、金沢をテーマとした科目を必修化すること、地域で学ぶフィールドワークを取り入れるなどの提案が見られる。また、地域との繋がりを重視した課外活動の充実などによって、地域の感性が高められるとの提案も示された。

加えて、COC 事業の広報を充実する必要性を指摘する意見や生協において地元食材の取り扱いを増やすことの提案も見られた。一方で、「地域の感性」ということばの定義がなく回答することができないとの指摘があった。一層の広報に努め、本学が進める COC 事業が学生に周知されるよう努めていかなければならない実態が示されたと理解したい。

以下に、記述された学生の提案を示す。

### <正課での工夫>

共通教育に体験型の、地域と交流をする授業を取り入れる  
共通教育で金沢に関する授業を必ず一つはとるようにさせる  
金沢ならではのインターンシップを増やす  
地域のことを考える講義を必修科目とする  
必修のフィールドワークがあればよい  
授業の中で地域に出る機会を設ける  
街中で授業を行う  
先生でない地域の話の聞く機会をつくる

### <課外活動の拡大>

地域の連携をはかる学生団体への支援（物資・金銭含む）  
地域と密着した、課外活動、ボランティア活動（ゴミ拾いなど）を行う  
地域に出て住民と交流し、関わりを深める  
地域の行事に積極的に参加する  
地域参加型のイベントの企画運営  
金大祭をより活発に行って欲しい  
学祭に外部団体を取り込む  
兼六園での合コンで若者を集める  
ご当地アイドルとのコラボレーション

## 書道展を行う

### <広報の充実>

具体的に地域の何に対して何を行うのか、行っているのか発信した方がよい  
COC について初めて聞いたので、COC 自体をさらに周知させる必要があると思う  
メディア戦略を持つ

### <立地条件の克服>

大学を城の中（街中）に戻してほしい  
里山からとりあえず降りてくればよいと思う  
とりあえず、大学を山のふもとに下ろそう  
交通の便をよくする

### <その他>

ご当地食材を学食・購買に。まずはきっかけから。

#### 授業料免除

北陸出身の方が卒業後、地域に残る可能性が高いと思うので何かしら優遇点があるとよい  
学生アパートの住民（学生）が町内会などに入れるような紹介、提案

### <定義に対する質問>

そもそも地域の感性とは何ですか？

地域の感性とは何ですか？

地域の感性が何か、まずわかりません。

「地域の感性」というものがよくわかりません。

「地域」という言葉自体何を指しているのかわからない。